

まえがき

本書は“ビートルズ・ソロ作品読解ガイド(4)”(2021年1月発行)の続編である。同書においては、元ビートルたちのソロ録音で、1986年から1993年までの8年間に発表されたオリジナル作品を取り上げた。ジョン・レノンのものが1曲、ポール・マッカートニーが70曲、ジョージ・ハリソンが27曲、リンゴ・スターが4曲(それぞれ第三者との共作を含む)で、計102曲だった。

本書では、彼らの1994年から2003年までの10年間の作品に焦点を当てる。レノンのものが9曲、マッカートニーが50曲、ハリソンが11曲、スターが38曲(それぞれ第三者との共作を含む)で、計108曲になる。“ビートルズ英語読解ガイド”(2007年8月初版発行)以来一貫していることであるが、先入観を排し、根拠のない想像をできる限り抑えて、歌詞の原文を文脈と当時の状況から解釈するようにしている。

作曲、編曲、演奏、録音、蓄音盤化などの解説は行っていない。これらの点については、既に内外で多くの図書が出版されている。私の出る幕ではないと心得る。

歌詞の全文を、メロディーやリズムにとらわれずに、普通に文章を書く体裁で掲載できればよいのだが、著作権の観点から見送っている。歌詞の広い部分なり全体像を一目で眺めるには、CD付属の歌詞リーフレットや、市販されている楽譜などを参照して欲しい。本書はそのような出版物の代わりになるものではない。

記述の仕方について、改めて説明しておく。歌詞の中の語句に直接、強調して言及する際は、例えば *in the meadow* のように、その語句をイタリック体で表記してある。< be fed up (with) doing > や < 命令文 + and + 未来時制 > のように < > で挟んであるものは、言い回しなどの基本的な構成を示している。「」に入っている和文は、私の訳語。読者が理解しやすいように、敢えて直訳の域を出ないようにしてあることが多い。他方、他書からの引用の前には『』を用いた。また、著作物の題名は、英語のものは大文字だけで記し、日本語のものは“ ”でくくってある。

〔 〕内の文字は楽曲のタイトルを示す。数字の場合は、本書における作品番号。あくまで整理の便宜上のものである。〔X・xxx〕のごとく、アルファベットを冠して、Lはレノン、Mはマッカートニー、Hはハリソン、Sはスターキーが作詞者であることを表す。数字は前編からの延長で、個人ごとに年代順になっている。

ところで、改めて弁解しておきたいことがある。厳密に言うと、本書で扱う楽曲の中にビートル（ビートルズのメンバー個人）のソロ作品は一つもない。すべて元ビートル（ex-Beatle）の作品である。シリーズ初編の命名に苦労したが、“ビートルズ・ソロ作品読解ガイド”という題名に決めた以上、本書もそれを継承するほかなかった。

バンドとしてのビートルズが残した楽曲の多くは、永遠に多くの人によって鑑賞され続けられると思う。だが、元メンバー個人の作品は、既にCDなどを所有している人でも、聴く機会が少ないかも知れない。本書によって、そのような埋もれがちな名品が再発見され、再評価されることを切に願うものである。歌詞の背景と内容が正しく理解できれば、以前よりも一層興味深く鑑賞できるはずだ。

本書について意見などがあれば、聞かせて欲しい。異論や私が知らない情報は、特に歓迎する。

2022年8月
秋山直樹